

令和元年度沖縄県振興審議会 第5回文化観光スポーツ部会議事録

1 日 時 令和元年11月20日(水) 15:00~17:23

2 場 所 沖縄県庁6F特別第2会議室

出席者

【部会委員】

部会長	下地 芳郎	沖縄観光コンベンションビューロー会長
副部会長	平田 大一	沖縄文化芸術振興アドバイザー
	小島 博子	一般社団法人日本旅行業協会沖縄支部副支部長
	前田 裕子	公益財団法人名護市観光協会理事長
	當山 智士	一般社団法人沖縄県ホテル協会会長
	佐野 景子	独立行政法人国際協力機構沖縄センター所長
	與那嶺善道	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団理事長
	ミゲール・ダールズ	沖縄空手案内センタースタッフ・月刊「沖縄空手通信」編集者
	渡嘉敷通之	公益財団法人沖縄体育協会専務理事
	富田めぐみ	合同会社琉球芸能大使館代表

(欠席)

石原 端子	沖縄大学人文学部福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻准教授
大 城 學	岐阜女子大学沖縄サテライト校教授
佐久本嗣男	公益財団法人沖縄体育協会理事長
原田 宗彦	一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構会長
東 良 和	沖縄ツーリスト株式会社代表取締役会長

【事務局等】

文化観光スポーツ部：新垣文化観光スポーツ部長、山川空手振興課長

金村スポーツ振興課長、新垣文化振興課長、伊田交流推進課長

仲里班長(観光政策課)

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

これより沖縄県振興審議会第5回文化観光スポーツ部会を開催いたします。

司会進行を務めます観光政策課の仲里と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

審議に入ります前に御報告いたします。

本日、東委員、佐久本委員、原田委員、石原委員、大城委員につきましては、都合により御欠席の御連絡をいただいておりますので御報告いたします。

初めに、配付資料の確認をお願いいたします。お手元の次第にあります配付資料一覧をごらんください。

本日お配りしている資料は、次第と配席図、出席者名簿。

沖縄 21 世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)等総点検報告書(素案)冊子。

資料 1-10：第 1～3 回文化観光スポーツ部会 配付資料。

資料 11:令和元年度沖縄県振興審議会 文化観光スポーツ部会 議事要旨(11/20 更新)。

資料 12-14：第 4 回文化観光スポーツ部会 配付資料。

文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書(案)。

文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書(参考資料)。

資料 15【報告事項】SDGs と沖縄 21 世紀ビジョン基本計画の関係。

不足はございませんでしょうか。

それでは、本日第 4 回の部会に引き続きまして、文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書(案)が審議テーマとなります。

審議に入ります前に、新垣文化観光スポーツ部長より、先日の首里城火災に関する状況等について御報告させていただきます。

新垣部長、よろしく願いいたします。

#### **【事務局 新垣文化観光スポーツ部長】**

委員の皆様、改めましてこんにちは。

皆さん、御承知のとおり、去る 10 月 31 日未明に発生した火災によりまして、首里城正殿など 7 棟が全焼、一部損傷ということになっております。

首里城は沖縄県民のアイデンティティの拠り所として県民はもとより、観光客にも親しまれ、年間 280 万人の観光客が訪れる沖縄を代表する観光施設でもございました。

その首里城正殿などを失ったことは、私たち沖縄県民にとって大きな損失でございます。

首里城火災の観光への影響につきましては、現時点で直ちに入域観光客数の減少には至っていないものの、修学旅行や M I C E 等のコース変更に伴う代替施設における対応等について官民連携して取り組みが必要になっているところでございます。

一方、県内、国内外の世界のウチナーンチュをはじめ、大変多くの皆様から温かいお見

舞いや激励のお言葉をいただいております。また、あわせて首里城復旧復興支援のための寄附金等が日々寄せられておりまして、復旧に向けた支援の輪が広がっているところでございます。

このような中、去る11月1日には沖縄観光コンベンションビューローが事務局となっております沖縄県ツーリズム産業団体協議会が開催されまして、関連団体の首里城復興に向けた取り組みの動きがなされています。

また、県におきましても、部局横断的にスピード感をもって対応するため、県庁内に知事直轄組織の首里城復興戦略チームを11月18日に設置いたしまして、首里城の復旧復興に向けたロードマップの策定、これとの協力関係の構築、復旧復興、コンセプト等の計画等への対応、あるいは寄附、募金、(仮称)首里城復旧復興県民会議への対応等を進めていくことにしております。

県としましては、関係機関と連携のもと、県民、観光客、観光関連事業者等のニーズを把握しつつ、正確かつ迅速な情報発信を行うとともに、誘客受け入れにかかる対策を早急に図ってまいりたいと考えております。

引き続き関係各位の御理解、御協力をこの場を借りましてお願い申し上げます。

以上でございます。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

#### **【事務局 仲里班長(観光政策課)】**

新垣部長ありがとうございました。

それでは、議事に移ります。皆様の手元にマイクがございますが、御発言の際には右下のボタンを押していただければ、オン・オフの切りかえになりますので、マイクの御利用をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

沖縄県振興審議会運営要領第3条第3項の規定によりまして、部会長が会務を総理することとなっておりますので、これからの議事につきましては下地部会長に議事進行をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

#### **【下地部会長】**

皆さん、こんにちは。

それでは、これから部会を始めたいと思いますが、前回部会が10月29日ということで、首里城火災の前々日です。前回もいろいろな議論をしましたがけれども、首里城火災を受けて、特に文化振興、観光振興の部分においては、今後の対応が大きく問われてくると思っております。本審議会は、これまでの施策の検証ではありますが、こうした環境の変化も

踏まえて、今後取り組むべき内容等についても御意見があれば、またお聞かせいただきたいと思います。

先ほど新垣部長から、これまでの取り組みについての報告もありましたけれども、観光コンベンションビューローでは、観光への影響をなるべく抑えることもありますので、修学旅行や旅行会社を中心にいろいろなヒアリングも進めさせてもらっています。先日は県と総合事務局、那覇市、那覇市観光協会の方々と一緒に意見交換をしましたが、業界の皆さんからは観光に関しては、県外から沖縄の観光を応援する声が非常に強く上がっているので、何らかの形のキャッチフレーズみたいなものをビューローで準備してもらえれば、それを活用して県外・海外に向けて沖縄観光支援の動きを出したいとの要望がありました。

それを踏まえて、先週から今週にかけてその対応をしていますけれども、来週早々には関係者の皆さんにこういうメッセージで応援を呼びかけていただきたいとお知らせができると思いますので、また皆さんの御協力もお願いしたいと思います。

それでは、今回は最終回ということでとりまとめになりますけれども、議事次第に沿って進めていきたいと思います。

本日の議題事項の①文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書(案)について、事務局から説明をしていただいた上で審議をしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

## **1. 沖縄県振興審議会 第5回文化観光スポーツ部会**

### **①文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書(案)について**

#### **【事務局 仲里班長(観光政策課)】**

お手元に配付しております文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書(案)について御説明いたします。厚いA4の冊子資料の御用意をよろしく願いいたします。2種類ございまして、A4縦置きの報告書の本体の部分と、それから参考資料として要約した横置きのポンチ絵の資料があるかと思います。両方照らし合わせながら御説明させていただきますのでよろしく願いいたします。

本体の報告書のページ番号は右下の番号です。2ページをごらんください。当該資料につきましては、第1回から第4回にかけて、本部会において委員の皆様から頂戴した御意見や総合部会、離島過疎地域振興部会、学術・人づくり部会など他の部会の委員の皆様より頂戴した御意見をまとめたものになってございます。

2ページは本報告書の目次です。3ページから4ページにかけては本部会の概要、5ペ

ページは構成、6ページ以降が開催実績ということで第1回から第4回、本日の第5回にかけての内容が記載されております。7ページの項目3の文化観光スポーツ部会における調査審議結果が本日、御意見をいただきます内容となっております。

まず(1)沖縄21世紀ビジョン基本計画等総点検報告書(素案)に対する修正意見についてでございます。

それから(2)重要性を増した課題及び新たに生じた課題について、(3)自由意見についてとなっております。それぞれの3つの区分につきましては、参考資料、A4の横置きを活用しながら御説明いたしますので参考資料を御準備ください。

別紙1の内容は、文化観光スポーツ部会や他の部会の委員の皆様からの意見がありました総点検報告書(素案)に対する修正意見、それに対して審議結果報告書(案)の別紙1をとりまとめているものでございます。

分厚い縦置きの資料の8ページ以降が別紙1の本体になります。8ページをお開きください。

8ページ以降の内容をまとめたものが参考資料の1ページ目となっております。

別紙1につきましては、修正意見の審議結果一覧となっております。文化観光スポーツ部会から22件、離島過疎地域振興部会から35件、基盤整備部会から5件、学術・人づくり部会から2件、農林水産業振興部会から1件、産業振興部会から6件、総合部会から5件の合わせて76件の意見が当部会に関連する意見として出ております。こちらに1つ1つの修正意見に関しましては、先ほどの分厚い資料の8ページ以降に76件が一覧となっております。本日、全てを御説明するのは時間的に難しいので、この76件の中から幾つかかいつまんで代表的なものを御説明差し上げたいと思います。

別紙1の本体の8ページをお開きください。項目番号が通し番号として番号が1～76までございます。

1番、第2章の221ページの8行目が該当箇所になりますが、報告書(素案)の本文においては、県外において認知度が低い小規模離島については、観光客の増加に向けた重点的な支援が必要であるとの文章に関して、理由等の欄の最後の段落に、小規模離島への観光客数の増加に向けた支援を展開する際には、単に入域客数の増加に向けた施策にとどまらず、1人当たりの消費単価を増加させる施策を伴う必要がある。との理由に基づきまして、意見の修正文案等のところを赤字で書かれておりますが、観光客1人当たりの消費額の増加に向けた重点的な支援が必要であるという修正意見が出ております。こちらは産業振興部

会の米須委員からの御意見です。これに対して、現状として審議結果の案になりますが、同じ項目の中で、島のニーズに合わせてということと、それぞれの個性や魅力を活かした誘致活動による観光客の増加及び観光客1人当たりの消費額の増加に向けた重点的な支援が必要である。という修正文案を事務局として提示させていただいております。

4番、第2章の127ページ、国際船旅客数に関連する部分で、国際貨物ターミナルが一時的にLCCの旅客ターミナルになっていた記述を空港整備の変遷として記述しておいたほうがよいという当部会の東委員からの意見に基づきまして、右にある審議結果案という形で、LCCターミナルビルの変遷を追加で記載する形で修正文案を検討しております。

9ページの5番、レンタカーの増加等によって渋滞が課題となっている内容の部分です。体系的な幹線道路網の整備、定時・定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要があるという文章につきましては、空港周辺におけるレンタカーの拠点の分散化が必要ではないかとの御意見がございました。それにあわせまして、この文章の中に、観光拠点ともなり得るレンタカーの貸し渡しの中・北部への分散化や、という形で追加で修正を行っております。

10ページの10番、当部会の渡嘉敷委員からの御意見で、スポーツアイランド沖縄という大きな看板を出しているのので、第2章にもスポーツについて触れるよう目次を追加していただきたいという御意見に対しては、今回の総点検については、現行計画策定時の内容を検証することとしていることから、原文のとおりとすることを考えております。なお、第2章の追記については、委員の意見を踏まえて、次期振計において項目立てを行うので整理してまいりたいと考えております。

12番、第2章の観光に関する離島振興の部分で、意見としては、大きな離島と周辺離島の観光対策を分けて考える必要があるのではないかという意見が出ております。この意見を踏まえて、先ほどの1番目の項目と同じ内容ですが、島のニーズに合わせて、それぞれの個性や魅力を活かした誘客活動による観光客の増加及び観光客一人当たりの消費額の増加の文言を追加しております。

11ページの14番、当部会の佐野専門委員からの御意見です。第2章の国際交流のセクションでございますが、ウチナーネットワークを担う次世代育成に関連する記述の中で、現在、進行する世代交代が世代分断とならず、世代から世代への引き継ぎとなるような発想で取り組むことが重要との御意見から、意見の修正文案として赤文字で書かれている部分ですが、移住・移民の経緯や困難を克服してきた歴史等に対する理解促進を土台として、

ウチナークチュのネットワークを担う次世代育成のための各事業間の連携という形で修文の御意見が出ておりまして、事務局としてそのとおり修文をしたいと考えております。

12ページの19番、人材育成の部分になりますが、当部会の佐野専門委員からの御意見です。21世紀の社会を担う子どもたちが国際的な視野を持ち、多様な社会的、時代的要請に適切に対応できる能力を備え、主体的に行動する人材になるよう、外国語教育や海外留学等の充実に向けた取り組みを行ったとございます。こちらについては英語立県の推進戦略事業等に外国語教育や海外留学等もさることながら、開発教育や国際理解教育などがあることについての記載がないのではないかという御意見、JICA連携によるさまざまな取り組みがなされているということで、こちらの部分を踏まえた意見の修正文案の箇所にございますとおり、開発教育、国際理解教育の推進という文言を加えてはどうかという御意見でした。これを踏まえて、そのとおり修文するとともに、644ページの41行目に文案を追加します。読み上げますと、国際理解教育の促進については、平成25年度から毎年30人余りの県内の高校生を開発途上国へ派遣し、国際協力、国際交流の必要性を学び、国際感覚やグローバルな視点を持った人材の育成が図られた。という文言を追加しております。

14ページの26番、第3章の573ページ、文化の振興の部分です。離島・過疎地域で伝統文化を体験、鑑賞する機会を提供するため、ワークショップや重要無形文化財保持者等による伝統芸能公演を実施したとあります。離島・過疎地域振興部会の鯨本委員から、離島・過疎地域住民とは具体的に誰か。伝統芸能とは地元の伝統芸能なのか、他地域の伝統芸能なのかわかりにくいため、対象を具体的に記載してはどうかという御意見がございました。こちらを踏まえて修文案として、文化の振興については離島・過疎地域の幅広い世代の住民を対象に伝統文化を体験、鑑賞する機会を提供するため、琉球舞踊なエイサー等のワークショップや重要無形文化財保持者等による伝統芸能公演を実施したという形で例示を加えております。

15ページの29番、第4章の離島の条件不利性克服の項目にあたる部分です。こちらに関しては、離島・過疎地域振興部会の鯨本委員から、一部地域では入域観光客数の増加による自然環境への負荷の増大や住民や地域コミュニティへの悪影響などの観光公害も懸念されているため、経済や社会、環境への影響に十分配慮した持続可能な地域づくりを推進する必要があるという御意見が出されております。これを踏まえて、離島の条件不利性克服のところの御意見ではございますが、入域観光客増加に対応する課題につきましては、観光全般の受け入れ態勢の整備にあたることから、世界水準の観光リゾート地の部分の受け

入れ態勢の整備のセクション、455ページの10行目に以下の文案を追記したいと考えております。文章としては、県民生活や自然環境に影響が生じる諸問題については、市町村や観光協会等から情報収集し、課題を整理した上で地域と連携を図りつつ対応を検討する必要があるとさせていただいております。なお、この追加文案に関しては、同様の意見が各委員からも出ておりました、同様の意見に対しまして同じような形で修正の対応をさせていただきたいと考えております。同じような内容が下にも出てまいります。

18ページの38番、39番は、全般的に成果指標の数値に関する御意見で、総合部会の大城委員からの御意見です。成果指標の数値については、沖縄県P D C A実施報告書の対象年度が直近の30年度の数値が出ております。総点検報告書を作成した時点から数値の更新がありますので、可能であれば数値を更新してはどうか。この御意見を踏まえて、成果指標の数値に関しては最新の数値に修正したいと考えております。あわせて、各項目で成果指標を掲載しておりますが、一部が成果指標として掲載されているところがございますが、第3章に掲載されている主な成果指標については、主なものだけでなく、各セクションに関連する全ての成果指標を掲載してはどうかという御意見がございまして、全部会共通でそのような形で対応しております。

19ページの45番、離島・過疎地域振興部会の崎原委員からの御意見です。離島における観光リゾート産業の振興のセクションの中に、観光客の滞在日数の増大に向けて、行政や観光関連企業と診療所との連携や外国人観光客に適切な医療を受けられるための通訳などの取り組みを推進する必要があるという文言を追加してはどうかという御意見がございました。これについては、そのとおり修正を検討したいと考えています。

46番も医師や看護師などの医療人材の確保、講座開設などの充実強化を図る必要があるという部分も同様に修正を検討したいと考えております。大体似たような内容の御意見をいただいておりますので割愛させていただきます。

28ページの69番、前回部会で平田副部長からの御意見として、空手ツーリズムなど空手をいかに産業化まで発展させるかとの書き込みをすべきではないかという御意見がございました。この意見を踏まえまして、素案の361ページの15行目以下に、長めの文章にはなりますが、下記のとおり追記することにしております。こちらについては、指導者及び後継者の育成、沖縄空手を支える道場の運営基盤強化に取り組む必要がある。認知度のさらなる向上を図る必要がある。多言語に対応した案内センターによるコーディネート、世界中の空手愛好家の受け入れ体制の強化を図る。最後には、観光産業はもとより、商工業関

連産業にも幅広く波及効果を高める必要がある。かいつまんでの説明で恐縮ですが、こうした文案の追記を検討させていただいております。

70番、ハード整備、大型MICE施設の遅れをどう記載していくかというところの御意見としてございまして、こちらについては、ウの大型MICE施設を核とした戦略的MICEの振興の中で、1の課題及び対策の段落の最後に、事実関係として、赤文字の部分の文章を追記すること、最後に総括的な今後の対策として、国の観光ビジョン実現プログラム2018に位置づけられているMICEの推進は、沖縄県の「沖縄MICE振興戦略」で示した各種施策を通じて国の施策にも貢献できるように引き続き関係機関の理解と協力を得ながら、その推進を図っていくとの趣旨の文言を追記したいと考えております。

29ページの72番、NPOバリアフリーネットワークとの取り組みについて、先進事例として書き込むことも必要ではないかという東委員の御意見を踏まえて、453ページの部分に、障害者、高齢者、観光案内所の運営団体とも連携して取り組みについて記載の追記をしています。

長くなりましたが、抜粋で恐縮ですが、以上が主な修正意見に対する審議結果案の形になってございます。

別紙2は最後にさせていただきます。

別紙3の総点検に対する意見ということで、修正意見ではないものの、今後の対応も含めた報告書(素案)に対する意見という形で各委員からいただきました意見をまとめてございます。参考資料のA4横置き資料は2ページです。報告書の本体は自由意見の一覧という形で縦置き資料は33ページとなっております。33ページ以降の内容を少し抜粋したものが参考資料の2ページにございますのであわせてごらんください。

文化観光スポーツ部会からは47件の意見をいただいております。左側に番号と報告書本体のページ数がございます。

文化に関しては、No.1、有形・無形の文化財の質と量が観光訪問の選択で重要である。との御意見です。

No.13番、しまくとぅばについて、日常的に使っていく。具体的なアクション・指標が必要ではないか。との御意見です。

36ページのNo.17、空手のイベントに関しては、持ち方に工夫が必要ということで、県民も楽しめる参加型の空手イベントに取り組む必要があるのではないかと御意見を佐久本委員からいただいております。

交流分野としては、38ページ、先ほども関連する御意見がございましたが、ウチナーネットワークの数字だけではなくて、アイデンティティやネットワークの強化について十分県民も評価する。質、量のバランスを説明していく必要があるとの御意見をいただいております。

No.2、海外の修学旅行に関しては、県内の文化観光スポーツ部と教育庁と連携して取り組んでいますが、交流を通して異文化体験も重要ではないか。という御意見をいただきました。

健康長寿・保育・医療はスポーツの分野になりますが、39ページの1番、子どもたちを支援する指導者の育成が必要ではないか。

観光産業振興については、まず1番として39ページ、スポーツ実施率、スポーツコンベンションの参加日数は海外からの人の経済効果、呼び込みで指定効果がありますけれども、一方でスポーツ実施率では総合順位など低い状況にあるということで、インナー政策が必要ではないかという御意見がございました。

また、No.12、武道ツーリズムについても、さらに全国的に注目されている武道ツーリズムの中で、空手ツーリズムの振興もさらに必要ではないか。との御意見がございました。

No.15、前回部会で御意見がございましたが、例えばバスケットボールはバスケットボール産業とは言わないということで、空手に関しても空手関連産業という表記の仕方を含めて検討が今後必要ではないかという御意見をいただいております。

全分野に共通する御意見も幾つかいただいておりますが、No.2、沖縄振興の基本的な考え方の中にSDGsの観点などを記載していく必要があるのではないかと幅広い御意見もいただいております。

このほか、離島・過疎地域振興部会から7件、産業振興部会から1件、学術・人づくり部会から3件の御意見をいただいております。代表的なものを掲載させていただいておりますので御確認ください。

修正意見、自由意見を踏まえまして、順番が前後して恐縮ですが、別紙2の重要性を増した課題及び新たに生じた課題ということで、事務局で重要性を増した課題については4件、新たに生じた課題については3件をそれぞれ記載させていただいておりますので御確認をお願いします。

横置き参考資料の4ページをごらんください。重要性を増した課題の1番目として、しまくとぅばの普及についてがございました。しまくとぅばの普及計画に基づいてさまざま

な取り組みを行っておりますが、しまくとぅばを挨拶程度以上話は人の割合が伸び悩んでいる問題がございます。このため、しまくとぅばを聞く機会や話す機会を増やすなど、関係機関と連携し、保存・普及・継承に向けた取り組みが必要である。という課題を重要性を増した課題として記載させていただいております。

続きまして健康長寿・保健医療、これはスポーツ分野です。スポーツ実施率についての内容の中で、20代から40代の若い世代のスポーツ実施率が低く、また運動する人と全くしない人の二極化が進んでいる状況にあります。このため、総合型地域スポーツクラブをはじめとした地域スポーツ環境を充実させ、県民の運動、スポーツをする機会創出を図り、生涯スポーツ社会を実現していくことが必要である。という課題を掲載させていただいております。

交流分野は自由意見にもございましたけれども、ウチナーネットワークの数ではなくて、アイデンティティやネットワークの強化についてという内容につきまして、国際交流の推進については、海外在住の県系人の世代交代が進む中、若者の県人会活動等への参加が減少傾向にあるなど、ウチナーンチュとしての意識、アイデンティティの低下が懸念されている問題に対して、ウチナーネットワークを担う次世代育成のための各事業間の連携を進め、若い世代へのアプローチを図る必要がある。との重要性を増した課題を掲載しております。

観光産業振興においては、空手ツーリズムの振興で武道ツーリズムが全国的に注目されているが、専門ガイドの育成や体験プログラム等の充実などの空手ツーリズムについて振興が遅れていることから、空手ツーリズムの振興を今後、より図っていく必要がある。という形で重要性を増した課題を記載しております。

6ページから新たに生じた課題について審議の中から出てきているものをまとめさせていただいております。1番目、島単位の実態把握についてということで、離島ごとにどのような観光が望ましいのかを考えるために、観光客数、観光収入など、島単位で実態の把握が求められている。こちらについては、今後、島単位での実態を把握していく必要がある。新たに生じた課題として記載させていただいております。

同じく観光産業振興の中で、クルーズ船寄港における良質な観光を確保する観光関連についての内容で、クルーズ船の増加についての総合的な分析や評価、寄港地周辺の経済効果とあわせて、良質な観光を確保する観光管理が求められている。という問題に対して、良質な観光を確保する観光管理を図っていく必要がある。と記載させていただいております。

す。

最後に、同じく観光産業振興の3つ目の新たに生じた課題として、入域観光客数の増加により生じる諸問題への対応についてという内容です。一部地域では入域観光客数の増加による自然環境への負荷の増大や地域コミュニティへの影響などが懸念されているため、経済や社会、環境への影響に十分配慮した持続可能な観光地づくりを推進する必要がある。との問題に対して、県民生活や自然環境に影響が生じる諸問題については、市町村や観光協会等から情報を収集するとともに、沖縄観光の現状を示す観光統計への強化などを通じて課題を整理した上で、地域と連携を図りつつ対応を検討する必要がある。としてございます。

ボリュームが大変多くなりまして、駆け足の説明となりましたけれども、文化観光スポーツ部会の調査審議結果報告書の概要につきまして、御説明は以上となります。御審議のほどよろしく願いいたします。

#### **【下地部会長】**

説明ありがとうございました。

皆さん大丈夫ですか。一度気分転換をしてからでないかとあれですが、すぐに意見でもいいのですが、改めて事務局から説明のあった部分、要約版、参考資料の部分と本体部分がありますので、少し確認をしていただいて、もう既に御意見、御質問がある方から先にお聞かせいただければと思いますけれども、佐野専門委員から、まずは質問ですか。

#### **【佐野専門委員】**

質問です。文化観光スポーツ部会調査審議結果報告書ということで、他の部会でも質問が上がったり意見が出たものを全部この中にまとめる、ほかの部会から上がってきたものについても、この部会でひととおり見て確認する必要がある、という理解だとすると、きょうは結構飛ばして御説明がありましたけれども、事前にいただいたものと若干ボリュームも違いますし、内容も少し違っているようなので、本来であれば、私たちが全て咀嚼しないといけないのかどうかを確認したいと思います。

#### **【下地部会長】**

おっしゃるとおり、ほかの部会から文化観光スポーツ部会が所管している内容等にコメントがあった分については、事務局で審議結果の上で修正文案等が書かれていますけれども、それに対しても御意見があれば、当然、コメントしていただければと思います。

本来であれば1件1件の確認作業をすべきなのかもしれませんが、そこまではいかない

と思いますので、文章表現等に誤りがあるとか表現ぶりがおかしいところ、もしくは追加の文章、数字等も含めて必要であれば、そのあたりも含めてお話をいただければと思いますし、説明のあった部分以外で、これまで言い足りなかった部分があれば、事務局、これは追加という形でもコメントはいいのでしょうか。大丈夫でしょうか。

今、説明のあった部分以外でコメントをいただければ、それを事務局で判断して、最終的な報告書に掲載を検討する形になると思いますので、少し幅広めでもいいと思います。御意見があればお聞かせください。

本日は富田委員から、まず文化面に関して説明のあったものも含めて何か御意見があれば、いかがでしょうか。

### 【富田専門委員】

前回、前々回と県外と海外の公演で2回お休みをしてしまいました。すみません。

3点ばかりお願いいたします。まず、69番、73番でそれぞれ空手についての御意見をいただいて、それに対して修正ということで大変長文で空手の産業化や空手ツーリズムに関しては、非常にボリュームのある修正をしていただいてありがたいと思います。

一方で、18ページの41番のミゲール(・ダルーズ専門)委員からの御意見ですが、これから空手、特に県民の気運の醸成という意味においては、既に空手を学んでいる方以外に、これから次の世代を担う子どもたちにとって、空手をどういうふう to 普及していくのがとても重要だと思いますが、この審議の結果で原文のとおりということで、その理由が武道が必修化されて、県内では8割以上の学校が空手を導入していますが、恐らくスポーツというか、体育としての側面だと思います。一方、沖縄空手は文化としての空手の側面を持っていますので、たとえ体育の授業であったとしても、選択種目であったとしても、文化としての側面を一緒に学べるような取り組みが必要であることをぜひ追記していただければと思います。

それからもう1つは首里城のことです。沖縄の文化に携わる者として、みんながまだ喪中にあるような感じで、首里城を失ったことが実際の身内を失ったような気持ちで言葉がないということをよく聞くのですが、どうしてだろうと思ったときに、王国を失った今、でも首里城というシンボルというか、アイコンみたいなものを実際に目に見えるもの、実際に触れることができたものが失われてしまったことが大きいんだろうと思いました。

でも、沖縄の有形・無形の文化はそれぞれの心の中にある。例えば芸能や空手はそれぞれの体の中に入っているもの、それ以外にも織物、染め物、焼き物、漆器など、琉球王国

時代の文化はそれぞれの体に交ざり、気持ちの中に今も生き続けているものなので、それは見える化していくというか、首里城が再建されるまでの間、いよいよ私たちの中にある琉球王国時代から脈々と受け継がれてきた目に見えないものを含めて、それぞれが中に持っているものをどうやって外の人たちと一緒に感じていくか。

これまでも行政のサポートがあってここまで発展してきたと思いますので、これからはより一層、県民の気持ちが強くなると思いますので、行政としてのより力強いサポートを、これまでやってきた施策の成果でここまでこういった文化があることを、首里城が再建されるまでの間、ぜひサポートをしていただきたいと思います。

それから短く最後にもう1点、私が見落としているのかもしれませんが、沖縄県文化芸術振興条例、平成25年に策定されたものは非常に大きなことだったと思いますけれども、その記述がどこかにあったのか。全国的にも見ても優れた条例ができたと思いますので、どこかに入れていただきたいと思います。見落としていたらごめんなさい。

以上、3点です。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございました。

御意見が出ましたので、事務局から手短かにコメントいただけるものがあればお願いします。

#### **【事務局 山川空手振興課長】**

御質問をありがとうございます。

学校現場における空手は、委員がおっしゃられた競技ではなくて、形を中心とした沖縄で育まれたきた伝統空手を県連の先生方が学校現場の先生方に講師として教習をした上で、彼らがしっかり県連の初段資格を取って子どもたちに教えている現状はございますが、ただ、委員の熱い思いをもっともっと子どもたちに触れさせるべきではないかというところを加味して、その意味をくみ取りながら検討してみたいと思います。

#### **【ダルーズ専門委員】**

今の話だけではなくて、富田委員と同感で、もっと伝統文化に触れる。空手を実際にやることも自由だけれども、恐らく中学校で空手の授業時間が非常に少なく、これではわからないだろうから、前回も言ったように、見て感動するのも自由だと思うので、そういう機会を学校現場で実施するのもいいのではないかなと思っています。

28ページの69番。4行目、沖縄空手を支える道場の運営基盤と書いてあるのですが。道

場だけなのか、道場・関連団体を入れるべきなのか。道場に全部含まれていればそれでいいのですけれども、団体も支える、あるいは支持すべきか、そういう一言を入れたらどうかと思っています。

あともう1つ、これは首里城との関係もあると思いますが、県内の空手界の力が大きいと思いますが、世界1億3,000万人の愛好家の皆さんは空手に対する思いが大きくて、この人たちに支えてもらえるようなプラン、そのウチナンチュのネットワークはうまく活用されているのに、まだ空手のネットワークはうまく使っていないのかなど。

例えば首里城の寄附金はハワイは始めているのに、世界の空手家はやりたいと、ただそれはまだ検討中。

今度のユネスコ登録に向けても、もちろん一般の県民も応援していかないといけないけれども、それだけではなくて、世界の空手家からも応援をもらえるようにネットワークづくりが必要かなど。どこかに書いてあるか検索しても見えなかったのですが、そういうネットワークがあればいいかなという気がします。

3点です。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございました。

空手の分については意見を踏まえてまた今後対応していただければと思います。では、文化振興課から。

#### **【事務局 新垣文化振興課長】**

富田委員からの御質問ですが、文化芸術振興条例についての記述があったのかということですが、記述はございません。富田委員がおっしゃるように、私たち行政、文化芸術振興、発展等については、同条例に基づいてさまざまな取り組みを行っているところから、その条例の文言を入れたほうが良いと考えておりますので、入れる場所については持ち帰って検討させていただいて、適切な場所に盛り込んでいきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございます。

ミゲール(・ダルーズ専門)委員は先ほどの部分でよろしいですか。追加で、今は文化の視点からということをお話を先に伺っておりますけれども、また何かあれば後ほどお願いします。

次は、スポーツの部分からのコメントをいただきたいのですが、いかがでしょうか。

#### 【渡嘉敷専門委員】

スポーツ部門は3名いますが、きょうは私1人ですので。私のほうも意見を出してありますので、特に10ページ、目次にないのが一番のネックだなとずっと思っていますので、将来的にはつくだろうと、最終的な部分で次期計画には項目を立てて整理をするということがありますので、次回を期待したいと思っています。

それと1つ気になるのが、参考資料4ページ、健康長寿保健医療の部分ですが、実施率、そこら辺に関しては二極化が進んでいる状況は間違いない。

ただ課題として、総合型地域スポーツクラブの充実が書かれていますが、現状として沖縄県は82%ぐらいの設置率がありますが、はたしてこれが確実に充実した動きをしているのか、まだ疑問な部分がある。総合型という形をとっている地域はたくさんありますが、実動していない現状も多々あるのは後で調査が必要ではないかと思っています。

それから、これまでtotoあるいは国からの支援のもとで各市町村に総合型が活発的にできてきた、動き出した、ところがその時期が終わって、今度は児童相談所(児相)で頑張りなさいということで、登録認証制度という制度をとりながら各市町村に総合型のスポーツクラブを立ち上げてほしいという形になっている。はたして、それだけのメンバーがいて、それだけの予算があって、設立できるのかが疑問で、県体協としても担当を通してどれぐらいができるのか、確認をしているところです。国としても早急に登録認証制度を立ち上げてやる動きがありますので、そこら辺に対応できるのかが疑問なところです。

ですから、実施率なども総合型の地域スポーツクラブを活用したとありますけれども、はたしてそれが可能かどうかもう少し疑問な部分が残る感じはします。

それと総合型のスタートが、地域で楽しくできるという年代を問わない形でレクリエーションのような総合型のスタートだったのですが、最近は少しずつ変わってきて、多種目ないといけないとか、いろんなものがないといけないと、中学生、高校生もそこでできるというものが出てきていますが、日本の現状としては中学校は中体連がある、高校は高体連があって、全中の大会、九州の大会、全国大会がある。それから高校生は九州、全国、インターハイと、学校規模、学校対抗の部活動がある中で、そこら辺を含めた場合に総合型がどれだけ機能するかが疑問だと言っておきたいと思います。

以上です。

#### 【下地部会長】

ありがとうございます。

事務局のほうは、何かコメントはありますか。

#### **【事務局 金村スポーツ振興課長】**

じゃ、まず一つ第2章の件ですが、スポーツはさまざまな分野に影響を与える力がありますので、健康であったり地域形態の活性化であったりというところに重要なところだと思っていますので、次期の制度の中ではしっかり記載して、しっかり取り組めるようにしていきたいと考えています。

それから実施率の件ですが、確かに総合型地域スポーツクラブは、現在65団体、我々のほうで把握しています。ただその中で、実際に活動できているのが15ぐらいかと考えております。実質的には財源の確保や人の確保が厳しい状況の中で、各クラブさんが活動しているような状況です。ただ、総合型地域スポーツクラブというのは、スポーツ庁が中心になって各地域にスポーツ活動を落としこんでいく、それをツールとして考え出されてきていて、現在のスポーツ基本計画の中の第二期の計画の中でも、今渡嘉敷委員がおっしゃったように、認証制度をしっかりと作り組織体制もしっかりつくって進めていこうとしているところですので、我々としても、この総合型地域スポーツクラブとも引き続き整理しながら、活動しながら地域の中のスポーツ活動を活性化していきたいと考えております。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございます。

今、前半部分で、文化とスポーツの部分について直接関係する委員の皆さんから御意見を伺いました。交流観光関連の専門の委員の皆さんからも、文化とスポーツの分について何かコメントがあれば、それをお伺いしてから、次の交流と観光にいきたいと思いますがいかがですか。

當山委員は、スポーツ実践家でもありますが。

#### **【當山専門委員】**

基本計画は現状を踏まえて、ありがたい姿をしっかりと示せば、そのことには異議なしというところでございます。とはいうものの観光の世界でいったら、日々マーケットは多様化していて、常にアップデートされているのです。ここに書かれたありがたい姿が、実は来年には新たな課題や新たなテーマや、今、観光分野では常に対応型アップデートが進んでいる産業の中で、どんどん出てくると思っています。それに柔軟に対応できるような県の姿勢をしっかりと持っていて、これに捉われることなく、もしかしたら文言が180度変わる

やもしれない。戦略が今ここで180度変えないといけない、そのようにバージョンアップしなければいけない場面が間違いなく出てくると思いま。その辺の対応さえしっかりできるような連携ができればいいなと思うきょうこのごろです。

例えば首里城の焼失についてもそうですよね。もう想定外でした。でもマーケットにとって見ると、先ほど話がありましたけれども、改めて姿なき首里城が今新たな意味を持ち始めているわけで、寄り添う本当に多くのお見舞いと、心からの連携がすごく寄せられています。そういった意味でも、文化財、文化観光のあり方というのは、とても重要な部分ですから、ここに書かれていない部分が、これから文言をどんどん付け加えていかなければいけないと思います。ぜひよろしくお願ひします。これを参考に頑張ります。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございます。

平田副部会長からお願いします。

#### **【平田副部会長】**

冒頭に部会長がおっしゃったように、10月29日に第4回の振興審議会があつて、その日の夕方に国民文化祭が沖縄で開催されるという重大ニュースが発表されて、10月30日にそれが一斉にニュースに流れてすごく喜んでいて、その次の日に世界ウチナーンチュの日の式典も10月30日にありましたので、そのさなかの首里城の火災。11月2日の組踊りのイベント系もなくなってしまったということで、怒涛のような1週間というか、このタイミングだなと思っています。

おそらく僕が思うに、この21世紀ビジョン基本計画というのは、昔でいえば万国津梁の鐘の銘文です。我々はこんなふうな生き方をしますということを、琉球の民が高らかにうたい上げた万国津梁の鐘の銘文があり、その拠点としての首里城があり、動く首里城としては進貢船がある。と考えたときに、今首里城がああいうことになっていますので、21世紀ビジョンの中で、大きなビジョンというか事業計画のようなものをしっかりと打ち立てていかなければいけないということを、改めて痛感しています。

と考えるときに、来年は2020年ですが、おそらくこの21世紀ビジョン基本計画の点検が終わって、次のステップに進むと思います。その時に2021年のウチナーンチュ大会、2022年の復帰50周年と文化祭と考えたら、おそらく首里城とのかかわり合いというのは、特にウチナーンチュ大会においては、大きなテーマを持って海外の方々が沖縄に来るのではないかという印象を受けます。

おっしゃったように、今、総点検の中では、全てを拾い上げることはできないかもしれませんが、きっと次のステップの中では、ある意味、首里城の再建復興というものが戦後の復興であったり、当時であれば豚を送ってくれたりしたようなことと同じようなことが今既に始まっているわけですから、本当の意味でのもう一回ちゃんと芯の通った、形だけの県民がだれも読まないような21世紀ビジョンではなくて、県民だれも見ような、万国津梁の鐘の銘文のような、そういうシンボリックなものがやはり必要なんだということを感じております。

内容に関しては、職員の皆さん、それから意見がいろいろと反映されていて、重箱の隅をつつくかのような議論にしかならないのですけれども、ぜひ大きなそういう揺るぎのない思いを持っていかないと、日々アップデートされていく法令、例えば福祉関係だと2年前、3年前の法律というのはどんどん変わってきているのですが、市町村の福祉関係の部分というのは全く対応できていないということもあります。職員が勉強しなければわからない。であれば、その親御さんたちのほうが学んで、それを職員に伝えるということが今実際に起こっているわけです。

そういうことを考えてみると、この21世紀ビジョンの中でも一緒になって県民の学びもフィードバックさせながら、常にアップデートしていきような仕組みが必要なのかもしれないと思いました。

なので大きな柱として立てておきながら、細かい運用の部分に関しては10年の中できつと劇的に変わっていることもあると思うので、その部分をどうしたらいいかということをも自分自身の課題としてもこれは考えていきたいと思えます。意見というよりは、そういう感想です。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございます。

私から2点。1点目は、首里城の火災に対して審議会としてどういうコメントを出すかはとても大事だと思っていて、21世紀ビジョンの中では首里城は前提として沖縄の文化の象徴、シンボルとしてそれも一つ踏まえた上でいろんな各種施策となっているはずですから今ぱっと見ても、この中に首里城云々という言葉は当然出てきてはいないのですが、今後に向けてという今皆さんが言われている自由意見の部分においては、改めて首里城の意義の確認と首里城の再建に向けてというのが、1つ大きな文化観光スポーツ部会の中では、重要なテーマになるということは明確に打ち出していた方がいいのでは

ないかと思います。これはいかがでしょうか。この書きぶりについては事務局と調整をいたしますけれども、ほかの部会から、もしかしたらいろんな意見が出てくるかもしれませんが、文化という視点においては、この部会から首里城の再建等に向けての話をしっかり出したほうがいいのかというのが1点です。

もう1点は、スポーツに関してはオリンピック・パラリンピックもありますけれども、障害を持っている人のスポーツの視点に関して、私が十分読み込んでいないのですけれども、今の21世紀ビジョン基本計画のスポーツ振興の中で、どういう位置づけになっているのか。もしそこが十分でないのであれば、今後強化すべき分野と考えるほうがいいのかと。これは私の意見でもありますけれども、この点については事務局、少し意見いかがでしょうか。

#### **【事務局 金村スポーツ振興課長】**

まず障害者スポーツについては、通常の社会復帰のためのスポーツを活用した部分というところは、実は福祉のほうで所管して実施していると、我々のほうでスポーツの部分でやっているのは、トップアスリートの部分、要はオリンピックとかに出る選手の方の支援をしている。トップレベルと通常の方を分けながらやっているところがありますので、実は国のほうではいまスポーツ庁に一括して、厚生労働省から移ってやっているというところがあります。ただ障害者スポーツとなると、その障害者の方に対する接し方であったり、そういった部分のノウハウが必要になってくると考えておりますので、そこは福祉と連携しながらやっていけるようにしていきたいというところと、障害者スポーツ協会というところが、県の体協の中に位置づけされていますので、その中で連携を取りながら現在はやっているというところはございます。次期の制度については、そういったところも踏まえながら、検討していきたいと思います。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございました。

一般の観光の分野でも、国内外から障害を持っている人たちの受け入れをどうするのか。バリアフリーネットワークの役割も重要だということもありますので、合わせてこの点も検討していただければと思います。

それでは、後半の部分は交流の部分と観光の部分の御意見をお伺いしたいと思います。交流の部分から御意見をお伺いしてもよろしいでしょうか。

よろしく申し上げます。

## 【與那嶺専門委員】

私も前回、前々回、県外出張と重なってしまい参加できなくて大変申しわけありません。

11 ページ、佐野専門委員から大変素晴らしい意見が出ていますので、例えば 14 番の挿入に関して賛成いたします。

ウチナーンチュとしての意識、アイデンティティの低下が懸念されている。その部分に対して、移住移民の経緯や困難を克服した歴史等に対する理解促進等を土台としたというふうにしていくということですよ。

例えば、こういうウチナーンチュの意識とか、それからアイデンティティを育てるといふのは、各事業でいくつかの事業でされていると思います。例えば本の財団が行っているウチナーンチュ子弟等留学受入事業でも、毎年海外から県出身者の移住者の子弟等、そういう子どもたちを招いて、県外の大学や企業で留学研修をさせております。ただそれだけではなくて、本県の歴史や文化、習慣等それから県民との交流を通して、将来本県とまた出身国とのネットワークの架け橋になるように事業を進めているところです。

また教育委員会でも記載にありますように、高校生を 300 名以上長期・短期として県外に短期研修、留学等を行っている際にほとんど必ずその国に行けば、ハワイに行けばハワイの県人会、そして台湾に行けば台湾。それからドイツに行けばドイツの県人会と交流を行っているんです。そういう交流の中で、例えばこれはハワイだったと思うのですが、ハワイの移住者の歴史はどういう困難があるのか。交流の中で子どもたちにこの県人会の方々、二世三世の方が、我々はウチナーンチュとしての誇りを持っていますと。子どもたちに強く訴えておりました。そういうものを触れ合う、またそういう研修をやることによって、ウチナーンチュとしての誇りそれからアイデンティティが少しずつ養われていくのかと思います。

実際に様式 2、3 にありますように、ただ課題として出てきましたが、それぞれの各事業が単発で終わるのではなくて、実際にそういうつながりといいますか、連携をどのようにしていくのかということが今後の課題ではないかと考えております。

それからもう 1 点よろしいですか。事前に意見も出していなくて大変申し訳ないのですが、実際これはページでいうと 618 ページ、619 ページにあるのですが、多文化共生型社会の構築について記載されている部分があります。

本県の外国人の在住者に関しては、年々増加していて、618 ページに平成 18 年は 1 万 4,285 名とありますが、29 年は 1 万 5,847 名、確か平成 30 年は 1 万 8,000 人を超えている

と思います。ですから、先ほどいった交流のあり方というのは、多文化共生型社会の構築をして沖縄の在住の外国人との交流とかあり方とか、そういうものも今後、多文化共生型社会を構築する中でそういう交流ができないかなというのが、意見として今後出てくるのではないかと思います。以上です。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございました。

それでは、佐野専門委員よろしく申し上げます。

#### **【佐野専門委員】**

ありがとうございます。

まずは提案意見を真摯にご検討いただいて、取り込んでいただいて大変ありがとうございます。読み込んだかいがあったなと思いました。

別紙2、3でもよろしいですか。2点あります。別紙2の重要性を増した課題で、交流でウチナンチュの量ではなくて質のところ、重要性が増したというふうに捉えていただけたのは非常にうれしいのですけれども、今與那嶺理事長からもありましたとおり、別紙1のところで、まさに、我々が懸念しているのは若い人だけにアプローチするというのではなくて、やはりこの歴史があって特に今若い人たちもルーツを知って、そこからウチナンチュとしてのアイデンティティをさらに認識する。その意味でこの前の伊芸銀勇さんの演劇も非常に良かったし、あれを見て私もちょっと泣いてしまいましたが、やはり知られざる歴史、まだ皆さんに知られていない歴史をみんなに知らせていくことによって、さらに若い世代がそれを知ってつながっていくという、そこが重要です。この別紙2の中の問題ですとか課題の記載を見ると、やはり若い人しか見ていないというかそういうふうにも読める。おそらく「各事業間の連携を進め」の中にそのエッセンスは入っているんだよというのが県の御説明になるのだろうと想像しつつも、やはりここまでの歴史がきちんとあってこそ若い世代へのアプローチということがよりイメージとしてもわかるような課題設定、アジェンダセッティングをしていただけるとよいのではないかと思います。それが1点目です。

2点目は、この議論のあとで資料15で御説明をいただくことになっていると思うのですが、SDGsについてです。これは交流の域を越えるのかもしれないのですが、こちらの報告書素案の10ページにもありますし、きょうの資料でいきますと、45ページの自由意見で、下地部会長が全分野のNo.2のところでも、SDGsについて触れられているとおり、

SDGsはこの21世紀ビジョンとの関係において、重要性を増した、あるいは新たに生じた課題というふうに捉えるべきなのではないかと思っています。資料15についてこのあと御説明があると思うのですが、もちろん全ての県の政策、施策に関わってくるというのはそのとおりだと思うのですけれども、SDGsが持つ持続可能な開発という部分が、この21世紀ビジョンのめざす5つの島の姿からは正直、「持続可能」なというところは明示的には書かれていなかったのだと思います。もちろん思想はあったのだと思うのですけれども、むしろこの報告書、素案の10ページに新しいものとしてとらえられているとおり、ここに対応するものはもちろん含まれているのだけれども、持続可能な開発という観点での課題の捉え方、計画の立て方というのは新しいことなので、別紙2ですとか別紙3で整理されるべきものではないかと思っています。

この前ITOP（島嶼観光政策フォーラム）に参加させていただいたときに、サステナブルツーリズムというお話もありましたので、やはりこの文化観光スポーツ部会の中で、このSDGs、サステナブルなディベロップメントについては、重要性を増した、あるいは新たに生じたという課題の整理の仕方をしてよいかないかなと思いました。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございました。

SDGsについては、後ほど企画部からも説明があるということですので、後ほどまた何かあれば。今の新たな追加の部分についてはまた事務局で検討していただいて。事務局、交流の部分で何かコメントがあればお願いしてもよろしいですか。

#### **【事務局 伊田交流推進課長】**

御意見ありがとうございます。まず今、各事業間の人材育成事業間の連携ということで、新しい課題というふうに上げられております。今現在でも、次世代交流委員会や各事業の参加者のOBを集めた討論会等をやっているところがございますが、もちろんまだ弱い部分もありますので、引き続き検討していきたいと考えております。

新しい課題でありました、多文化共生と在留外国人との交流のあり方等、この新しい課題についても、ぜひ今後検討していきたいと思っております。

若い世代だけが対象ではないかということではありますが、もちろん若い世代だけではなくて、全ての世代を対象に私ども移民等国際交流の重要性を訴えていきたいと思っておりますので、そういう形で工夫した形でできないかどうか、表現を検討していきたいと考えております。以上です。

## 【下地部会長】

ありがとうございました。

平田副部会長お願いします。

## 【平田副部会長】

與那嶺さんの御意見、多文化共生の件と佐野専門委員のおっしゃった部分の交流の件、非常に同じ思いがありまして、伊田課長からも話があったので、その部分で文言が少し変わると思うのですが、ついこの間も伊田課長と一緒にシドニーに行ってきたし、先々月はロンドンにも行ってきました。去年はシカゴそれからつい先週は福建省に行ってきたのですが、全て担っているのは沖縄人以外の若者たちが沖縄文化を結構盛り上げている。それに伴って、中心となっている県人会の皆さんと連携を図りながらということで、県人会のあり方自体が、随分再構築しているところがうまくいっている。もっと言うと大きな曲がり角に来ているのではないかとすごく感じるところです。なので、県人会や若い世代だけに期待感を寄せるというのは、ウチナーネットワークというネーミングからすると、本来やはり少し弱いのかなという気がします。ウチナーネットワークというのは、ウチナーンチュでなくても沖縄が大好きで、文化を通じてつながっている人たちもウチナーネットワークという中に入ってくるので、ウチナーネットワークが持っているゆるっとしたネットワーク感、沖縄が持っている力強さというか、したたかさだと思うんですよ。それを文化がつないでいくというのであれば、空手だったり芸能だったりそれを感じるとやはりこの交流の中の、143ページあるいは617ページのこのウチナーネットワークの継承というところにおいては、きっとその多文化共生、逆多文化共生が実は各世界に起こっているんだと。ウチナー文化を持っている人たちが多文化共生をどんどん起こしているということを見ると、次のウチナーンチュ大会を含めてこの中に書かれている文言の中に不足していると思われるのは、必ずしも若い世代だけにフォーカスをした文言だけでは弱いのではないかと僕も思っていましたので、今の意見、それから伊田課長の今のお言葉を聞いて心強く思うところです。

県人会と一口に言いますけれども、やはりさまざま、僕らも現場に行って初めてわかることも多いのですが、では県人会にきちんとそういう人たちも入れたらいいじゃないですかという話をすると、例えば50人いる中で、48人が沖縄大好きですという人が集まっていて、2人だけの県出身者だとかのおじいちゃん、おばあちゃんたちは来なくなってしまうと。ですからそういう意味で言うのならば、県人会というもののアイデンティティと、

それを受け皿としてロンドン、シドニー、シカゴなどはエイサー団体であったり三線クラブだったり、そういったところが受け皿となって広い意味でのメンバーを受け皿として持っていて、それから県人会と活動にも参加していくという流れが見受けられますので、おそらく県人会そのもののあり方というものが問われる2021年のウチナーンチュ大会になるのではないかとことをすごく感じていますので、この文言の中にもぜひウチナーネットワークというものが、多文化共生とともに、ゆるっと揺るぎないものとしてあるということがうたわれるといいなと感じています。言葉足らずですが、そんなことを思いました。

#### 【下地部会長】

ありがとうございました。

今の御意見を踏まえて、また事務局で検討していただければと思います。

交流の部分は、国際だけではなくて今回の首里城に関連すれば、県外、全国のいろんな方々から応援のメッセージもいただいています。泡盛のファンクラブがあったり、いろんな県外で沖縄を応援する仕組みもありますから、そういった人たちも含めて国内外の交流ネットワークの強化という視点を改めてもっていくと、沖縄への理解はもっと深まるのかなと感じました。

それでは、観光の分野の委員の皆さんから御意見をお伺いしたいと思いますけれども、小島委員から質問いただいてもよろしいですか。

#### 【小島専門委員】

観光分野の取りまとめについては、當山委員の御意見でありがとうございますという感じですが。

せっかくの機会ですので首里城について申しげます。衝撃的な映像から始まったあの日から、観光の分野は行程の変更とか、そういう部分で今現在進行形で非常に影響を受けているところではあります。ただ、30年前を思い起こしてみますと守礼の門を見に来て、守礼門ということで行程には入っていたんです。だからそこに立ち返って、観光としての行程、まず首里城に代わるものはないです。ですので、代わりのものを入れてもお客さまは満足しないので、これから必ず復興していくと思うので、必ずさせないといけないと思うので、その過程を見せるような、そういった部分の行程というのもありだと思えます。守礼の門で写真を撮る、そこで首里城の歴史を聞くという形の行程を、今後、復興までの過程として組んでいけばいいのかと思っています。また今回の不幸な首里城の焼失ではあったのですが、県民が自分ごととして首里城をここまで思って、復興に向けて一つに

なれるというのはすごいことだと思います。観光に関わっている人間は、首里城を全部もちろん見てお客様を案内するのですけれども、実は県民は正殿に入ることがない方が多かったです。そこが焼失してみても初めて自分ごととして首里城を捉えて、必ず復興させたいということで一つになっているのは非常にいいことだと思うので、そこに立ち返ってまた一緒に県民が一つになって復興をしていければいいのかと思います。またそれを県内外、海外も含めて発信していれば必ず首里城は復興、復建できると思っております。

#### 【下地部会長】

ありがとうございました。

それでは、前田委員いかがでしょうか。

#### 【前田専門委員】

前回欠席してしまいすみませんでした。きょう聞いていて、最初に當山さんがおっしゃったように、ここ最近では2、3年でいろいろと変わってしまうので、今回この計画を立てて、今思っている反省点も来年にはもしかしたらまた変わっているかもしれない。當山社長や平田さんが言ったように、変えやすい仕組みができればいいなと感じています。というのは、一つ一つ見ればいっぱい言いたいことはあるのですけれども、それが果たして今の何をどうすれば、というのは難しいですが。

例えば、新たな課題の別紙2で言えば、この交通結節点やクルーズ船だけではなくて、北部と南の行き来の仕方のいろんな課題解決策はまだまだあると思います。バスで来るようになったけれども、北部の今後の世界遺産だとか、北部圏域にもっと交流人口を増やしたいという島単位の戦略があるのであれば、直接北部にドカンとすぐ入域できる、空の玄関が北部に必要という時代がくるのではないかと。既に出ている交通渋滞の問題、その交通渋滞の問題をどう変えるかといったら、グサッと大きな解決方法を考えたりするのもいいのではないかなと思ったりするのです。最後の新たな課題の7ページで言う諸問題についてですが、範囲が広いけど大事な事だったりするので、いろんなことを柔軟にやっけていける仕組みがあるといいなというのを感じました。今後の決め方を決めるです。あと、先ほどから皆さんが言っている、我がごとで県民がちゃんと見ていけるようにしていくという意味で言うと、このビジョンをつくったときに、県のアプリを作ってタブレットやスマホで気軽に見られるようなものにしてきてたら良かったのにと思いました。持ち運びも重くなくて済む(笑)。たまたま先日ケアンズ市に行ったのですが、そこですごくいいなと思ったのが市民サービスについてのアプリがだれでもダウンロードできる、QRコード

が配布されていて、しかもそれが多言語化されていました。多言語化は市のホームページもそうです。市のホームページでは多言語にして日本人でも読めるようになっていたり、住んでいる日本人が多いので、とてもサービスがいいなと思いました。21世紀ビジョンをホームページでPDFファイルで見るともいいのかもしれませんが、県民がさくっとアプリで気軽に手軽に読むことができればいいなと思いました。県職員の皆さんにとっても、それを今度はチェックしやすいとか、これ進んでいるな、これやらなければやばいな、などお仕事ははかどりやすいようなものをつくったらどうだろうと思いました。

観光に限らず、そういうふういろんな諸問題が本当に変わっていくので、当時はホテルは不足していると言われていましたけれども、つい最近までホテル不足と出ていたものが、今はもう過剰になっている。国際級のホテルは不足かもしれないけれど、アパートメントホテルはいっぱいになっている。要は把握できていない問題は本当にいっぱいあり、予想もつかない諸問題。ホテルは増えている、またはホテルは増えていない、多様化した宿泊施設は何軒、何室増えていますというところをわかりやすくその都度柔軟に把握し対応し分析していけるようになったらいいなと思いました。

交流の話に戻りますが、先ほど沖縄に住んでいる外国人登録者数の話が出ましたけれども、我々も本採用で外国人を採用したりしていますので、これは本当に他人ごとではない問題です。外国人を採用する事は住人としてその町に住み生活していくので、今後のまちづくりにも関わっていく事だと思っています。労働者という意味ではなくてちゃんとここで働いて家庭を持ち一生日本で暮らすという方も増えてますから、住んでいる外国人についても考えていかなければいけないと思いました。

もう一つ、ウチナーンチュのアイデンティティというところでいつも気になるのが、今沖縄に住んでいる我々のアイデンティティは何だろうと思ったりもします。

というのは、皆さん近くにもいると思うのですけれども、既にお名前は本土のお名前だけど、沖縄で生まれ育った人も増えています。昔だったら名刺交換して、本土のお名前だったらどちらですかといったら、どこ県から来ましたというのがあったのが、いまは親の代に来たのでずっとここで育っています。私の姪っ子や甥っ子も本土の名前だけれども、ここで育っているから思いっきりヤンバルの訛りをしているのですけれども、逆にいえば、沖縄の名前なんだけれども奥様は本土から嫁いできた方とかいろいろあるので、ウチナーンチュも多様化していると感じます。ウチナーンチュネットワーク、さっきの平田さんの話を聞いて思ったのが、県人会に必ず向こうに行って入っている入っていない。または沖

縄にながらも、ウチナンチュだけれどもエイサーはしていない。本土から移住して長い方で沖縄を良く知り愛している人、ウチナンチュの定義がとてもあいまいになってきたなど。私も沖縄で五十幾つも生きてきたのに、はっきりと自分で私のウチナンチュのアイデンティティは何だと言いつらいものがあったり、ここはちょっと明言するには難しいなど思ったので、それだけ添えておきます。交流というのは何をもってウチナンチュとの交流なのだろうか。ビジネスでWUBみたいに、これでビジネスしていこうというのでしたら、すっきりわかるのですけれども、何をしていくためとか、その辺をもうちょっとわかりやすければなと思いました。以上です。

#### **【下地部会長】**

最後に深いメッセージで以上ですと言われるとどうしようかなと思うのですけれども、それはメッセージとして。

#### **【平田副部会長】**

わからないということ自体が既にアイデンティティがあるということ、それはもう素晴らしいことです。

#### **【下地部会長】**

これは議論を深めていきましょう。

當山委員。

#### **【當山専門委員】**

観光人は熱いですね。交流の話もあって、これ観光部会ですから、観光で交流の部分を見て散りばめられたキーワードを見るとやはり国際交流とか、グローバル人材とかいっばい出てくるのですけれども、観光部会として感じるのは、我々の業界では持続可能なというのは使い古された言葉ですけれども、持続可能な観光推進地で必要なものというのは、さっきハワイの話もありましたけれども、ホストカルチャーって大事です。アイデンティティ、沖縄人のアイデンティティって何かと聞かれるとそれを決めておく必要が平田さん、あるやもしれませんね。

というのは、僕ら委員長もそうですけれども60以上になると、ジェネレーションギャップもあるから、復帰を体験したことがある人ない人、ドルを使ったことがある人ない人によっても違うのでしょうかけれども、そういう意味でいくと、沖縄には約1,000万人の観光交流者が来ていて、いいか悪いかは別にして、米軍が存在をされていて若い人たちだけではなくて、今前田さんがおっしゃったとおりスタッフの中には、たくさんの外国人スタッフが

就労の定住者として沖縄に構えているという意味でいったら、これからの観光地、お客様を迎える中でのホストカルチャーの強化というのは、グローバル人材というのは、沖縄のアイデンティティをしっかりと有した超ローカル人をどう育てていくか。これは伝統文化も含めてということだと思っていますので、ここはとても重要な分野だと思っています。

あとは、観光部会として、ありがたい姿をつくるということであるから、一つの例として、観光先進地として観光条例の質と数はとても重要です。きつこういうものができてきたときに、沖縄として観光条例の質と数をしっかりとつくっていく。

条例というのは県議会でいくらでもできるわけですから、基幹産業である観光についての観光議員がしっかりいて、基幹産業を考えるという意味でいったら、一つの結果としてさまざまな課題解決をしていく。首里城の問題だってそうじゃないですか、文化財の安全安心のあり方、これは条例が必要かもしれません。ということも含めて、予算の手当ても含めてさまざまな条例等、観光条例の質と量が、日本No.1に、沖縄って観光条例ものすごく多いよねと言われるぐらいでないと、日本で一番の観光推進地にはなれないでしょうということだと思います。

あとは、あえて言うのであればいろんな統計が出ていますけれども入域者数とか、これの質も大事です。観光消費額、合っていますか。そういう質問をするとやばいんだよね。何が言いたいかといったら逆に本当にリアルな、今ホテルの数といいましたけれども、ホテルも観光ホテルからローコスト系のホテルから、ビジネス系から民泊系まできている。お客さんも実はマーケット分析をしたら観光ホテルも泊まっているけれども、ウィークリーにも泊まっているという、より細かな分析、あと離島、欧米豪の人たちがどんな経路を使ってトランジットで来ているのか。より深い質の高い観光統計も求められていくと思いますから、この辺はビューローの下地会長が中心になりながら、そういうふうにしていかないと、未来のマーケットが見えてこないと観光はなかなか難しいですよ。そういったものも含めて、これをつくることを、つくった段階で既にこの白書は陳腐化しています。言い過ぎですか。

どちらかという、これの中身を変えていかないではなくて、沖縄の21世紀ビジョンというのは、どんどん変えちゃうぞというくらいのものであっていただくと、観光人としてはとてもいいなと思っています。まとめたわけではありません、すみません。

#### **【下地部会長】**

きょうもすばらしい意見ありがとうございました。

時間が限られてきましたので、もう一つSDGsの説明もありますので、観光については今各委員が言ったとおりだと思います。私のほうから手短かに。

今、當山委員からもありましたけれども、別紙の横書きの7ページに記載をしていただいていますけれども、沖縄観光の現状を示す観光統計の強化を通じて、これは本当に極めて大事なところなんです。これがベースになっていろいろな施策への反映になっていきますので、次の計画等に向けてはしっかりしていただきたいなというところがあります。

その上で、もう一つ、重要性を増した課題及び新たに生じた課題という中にあえて入れるのであれば、観光客の増加に伴って県内のいろいろな地域への影響を押さえるということもありますし、沖縄観光の魅力をさらに高めていくための観光目的税の導入というのが1つ今大きなテーマになっていますでしょう。これについてはまだ仕組み自体が確定はしていませんけれども、確実に導入を進めていくわけですから、それぞれほかの部会への情報共有という意味においても離島部会からは離島住民の沖縄本島へのいろいろな用事等に関して配慮を求めるといふ声も出ていますから、そういうものも踏まえた上で観光目的税の導入を早期に進めて、自主財源を用いてより質の高い沖縄観光をつくっていくというようなメッセージは入れていただいたほうがいいのではないかなと思っています。

また最後に、それぞれの委員の皆様から一言御意見を伺いますので、一度部会としての意見はこれでとめて、資料15、報告事項が1件があります。事務局、お願いいたします。

## **②SDGsと沖縄21世紀ビジョン基本計画の関係(企画部)**

### **【事務局 平良班長(企画調整課)】**

企画部企画調整課の平良でございます。

時間も押し気味に見えますので、今までのお話も聞かせていただくと十分御存じなところもあるかと思えます。ポイントだけ絞って御説明させていただきます。

まず、沖縄県庁ですけれども、玉城知事は「誰一人取り残さない」、これを公約に掲げて知事に就任されたということもございまして、今年の4月には全庁を挙げてSDGsに取り組むという方針を示されたところでございます。

それも踏まえまして、今後のSDGsに対する取り組みについて、沖縄21世紀ビジョン基本計画との関係を整理したということをお借りして御報告させていただきたいと考えております。

資料15でございますけれども、1ページ目に入口論として、2030アジェンダの記載がご

ざいます。

これも十分御存じだと思いますが、2015年に国連で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されたということです。その中に17のゴールと169のターゲットがSDGs (Sustainable Development Goals)として定められたということを記載しているところでございます。

2ページ目に、17のゴールの主な概要を一覧としてまとめておりますので、御覧いただければと思います。

文化観光スポーツ部の部会の分野につきましては、非常に17のゴール、多岐にわたって関連するものだと認識しておりまして、この政策展開、各施策の関係については後ほど御説明させていただきますが、非常に重要なテーマだなと感じているところでございます。

SDGsに関する国の取り組みが2. にございますけれども、国でもSDGsは非常に重要視しておりまして、国連採択後すぐに、2015年5月には内閣総理大臣を本部長とするSDGs推進本部を設置したと。同年12月には実施方針を決定して、国を挙げて取り組んでいるという状況でございます。

実はその実施方針の中で、地方自治体においてもSDGsの達成に向けた取り組みを促進すると位置づけられているところもございます。加えて、下線部にあるところですが、地方自治体の各種計画や戦略、方針の策定、さらに改定の際にはSDGsの要素を最大限反映するということが位置づけられているところでございます。

こういった背景も踏まえまして、3にございますけれども、沖縄県では別途の話になりますが、先ほどからご議論いただいている21世紀ビジョンでございます。こちらは2030年を目途とする将来像を取りまとめたもので、ちょうどSDGsも2030年に向けて持続可能な開発社会をつくっていくという目標でございます。ちょうど目途年が重なるところもあり、沖縄県はSDGsの基本理念、さらに17のゴール、は21世紀ビジョンの基本理念、さらに5つの将来像と方向性は大きく重なる部分があると考えていて、それも含めて、沖縄21世紀ビジョンの将来像を目指していく。その中で、新たに出てきたSDGsの考え方を取り入れて、SDGsを推進しながら新たな時代に対応した持続可能な沖縄の発展を目指していこうと今考えているところでございます。

加えて、国の実施方針を踏まえまして、今回この部会でも審議いただいたさまざまな施策の効果検証の結果を踏まえ、来年度から新たな振興計画の検討に入っておりますが、その振興計画の検討に当たってもSDGsの理念、施策等を反映させるという方針を持つ

ているところでございます。

4. 今回の資料の趣旨でSDGsと基本施策等のマトリクス表です。今回、専門部会でもご議論いただいた21世紀ビジョン基本計画、各種施策展開の効果検証をいただいたところですが、それぞれの基本施策、施策展開ごとに3ページ以降に一覧表としてSDGsのゴールとの関係を整理したということでございます。

本専門部会の関連する施策展開については黄色いところで、少しわかるようにしているところでございます。

この資料の考え方としては、施策展開ごとにさまざまな施策が展開されているかと思えます。これは作業部会の中でも検証シートで政策展開の中の各種施策、主な取り組みということでいろいろご議論いただくところでございますけれども、全部でいうと1,600ぐらいの施策がございます。それぞれの施策ごとに17のゴールの下のさらに169のターゲット、それぞれとの関係を整理した上で、それを積み上げたマトリクス表になっております。

これは現時点での取り組みとしてのSDGs達成への効果になるかと思えます。今後こういう取り組みをさらに充実させていこうかと思っております。この整理を踏まえて新たな振興計画の検討を進めていくということになるかと思っております。

今回、SDGsの17のゴールと現在の沖縄振興計画、沖縄21世紀ビジョン基本計画の各種施策との関係を整理したということございまして、この場を借りて御報告させていただいた次第でございます。以上でございます。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございました。

ただいまの説明について、委員の皆さんから何かご質問があればお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### **【當山専門委員】**

SDGsについては、観光系はかなり前からしっかり取り組んでいます。SDGsな地域が観光目的地として間違いなく選ばれるというのは、グローバルな観光トレンドのマーケットとしては出ています。

そして、特筆すべきは、知的トラベラーがどんどん増えてきていますから、SDGsなトラベラーがどんどん増えてきているんです。彼ら自身も、それに寄与したいというトラベラーがどんどん増えていきます。観光部会と言うならば、やはり沖縄はSDGsの地域に早目に近づけていくと。2030年が国連のマックスになっていますけれども、2025年

ぐらいまでにやりますか。ぜひそれをやりたい。

既に取り組んでいる事項として、12番目の「つくる責任、つかう責任」においては、食品のロスについて、ホテルは大量の食品を出しています。皆さんも一緒ですけど、ホテルのパーティーでbuffetを**やります**。みんな残していくんです。実はあれば大量に廃棄しています。12番目の「つくる責任、つかう責任」、食品ロスについて、これをぜひ推進したい。

今年の5月に国内においても食品ロス削減法ができましたが、実はホテルでのbuffetは持ち帰りがオーケーではないんです。ぜひその辺もやってもらいたい。簡単に言うとホテルは持って帰ってもらって構わないのですが、持って帰ってもらって腹がおかしくなりましたとホテルに言われたら困るので、どんどん持って帰ってください、そのかわり自己責任でというものがリスク回避としてあるのであれば、皆さん、食品ロスがなくなりますから、タッパーを持ってきてください。

あと、プラスチックごみでいえば、今宿泊を伴う述べ泊は2,200万人ぐらい。2,200万人ぐらいの宿泊を伴ったら、1年間で提供している歯ブラシ、ひげそり、ワンセット平均33円。これは全部に提供しています。もし、沖縄は、ひげそり、歯ブラシはありません。マイ歯ブラシ、マイシェーバーを持ってきてくださいと。外国はそうなんですけれども、沖縄でそういうことをやるだけで大量のプラスチックごみがなくなっていく。金額に計算すると20億円近くが我々ホテル、観光企業もコスト削減になるというところがあります。

ここはぜひ条例で。ぜひ委員長、やはり観光条例が必要ですから、これを実現するためにさまざまな条例の手当てが必要です。ぜひ県議会の皆さんに見てもらって、これは条例をつくるヒントが満載です。ぜひたくさん条例をつくってもらうために県議の皆さんにレクチャーして。

**【下地部会長】**

僕に向かって言わないでください。

**【當山専門委員】**

ある程度、これを県議に向かってレクチャーして、これを見て条例をたくさんつくると。

**【事務局 新垣文化観光スポーツ部長】**

これについては、私どもが言っても大丈夫です。

**【當山専門委員】**

ぜひぜひ。何が言いたいかわからなくなりましたが、SDGsはぜひやりましょう。

**【下地部会長】**

どうぞ、佐野委員。

### 【佐野専門委員】

ありがとうございます。

県が前から非常に取り組んできましたし、いろいろな業界でも取り組まれてきているということは本当に素晴らしいことだと思っています。我々はずっと途上国でSDGs達成のための支援をしてきている中で、沖縄が沖縄県民のために、県としてやろうとしているのはすごいことだと思っています。

万国津梁会議の委員の先生方が県民の意見を聞きたいということで県民円卓会議をやりまして、そこに私も出させていただきました。そのときの皆さんの意見が、県の施策でと言うとなかなか声が上がりにくいけれども、SDGsと言った瞬間に、なんだなんだということで耳を傾けてくれるところが増えたりとか、非常に大きな受け皿になってもらっていて、改めていろいろ自分たちが抱えている問題をその議論の俎上に載せることができるという意見がありました。

なので先ほど21世紀ビジョンを余り読んだことがないかもしれないけどという話がありましたが、SDGsは目新しいこともあって、皆さん今すごく関心を持たれていますし、これをテーマにしたフェスティバルを県と共催で行ったところ、6,000人以上の方に来ていただいたりしていますので、うまくこのSDGsを広報的な観点からも使っていただくといいのかなと思っています。先ほども申し上げましたが、ぜひ、重要性を増した新たな、とか、やはり何か入れ込んでいただきたい。この段階から、次の計画を待たずに入れ込んでいただきたいなと思います。

### 【下地部会長】

ありがとうございました。

ほかの委員の皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

この資料はとても大事ななと思って見ております。先ほどアプリの話もありましたけれども、県のホームページで整理をしていく中で、それぞれクリックをすると県の具体的な取り組みだったり、きょうは説明がありませんでしたが、市町村がどれぐらい取り組んでいるのが実はまだ見えていないですよ。市町村は首長さんによって相当温度差があると思います。県では各市町村の進捗も含めて取り組んでいただければと思います。よろしくをお願いします。

### 【事務局 平良班長(企画調整課)】

おっしゃるとおりでございます。

まず、広報的な観点でというのは非常にわかりやすい話で、そのとおりだと思っております。

観光ではないですけど、例えば、ターゲットの1番の「貧困をなくそう」という話については、沖縄県は今、子供の貧困を中心に産業界とも組みながら、県民会議もつくりながらパートナーシップで解決しようという動きをしています。こういったものも有名な話ではあるのですが、SDGsと絡めながら説明すると非常に伝わりやすいので、人が集まりやすいというところがあると、担当課からもよくお話を聞いていますので、実は寄附も結構集まりやすく、非常にパートナーシップというか、連携が組みやすい。こういったところは17のゴールを中心に、県の施策もうまく説明しながら広報という形で活用していきたいと思っているところでございます。

市町村、おっしゃるとおりでございます。非常に先進的にやっているのは恩納村で、モデル都市にも指定されました。かといって全市町村で体力、状況も違うかもしれませんが、実はそれぞれの市町村がやっている取り組み自体がSDGsに効果のある取り組みが多々あります。なので、我々としても市町村に対して情報提供とか、連携を図りながら、今年度というよりも来年度以降になりそうですけれども、しっかり取り組んでいきたいなと思っているところでございます。

当然、県の施策もゴールに合わせていろいろな取り組みをこれからしっかり情報発信していきたいと思っているところでございます。

貴重な御意見ありがとうございます。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございました。

予定していた時間を少し過ぎてしまいましたけれども、最後の回ということもありますので、各委員の皆様から一言御意見をお伺いして、最後にしたいと思います。

富田委員から、よろしいでしょうか。

#### **【富田専門委員】**

私是一言。文化・観光・スポーツ・交流、それぞれの分野で、きょう皆さんの御意見を伺いながら、「うとういむち」というキーワードが何度も頭に浮かんできました。

首里城を失った今、私たちに脈々と受け継がれてきたウチナーンチュのアイデンティティとか、琉球王国時代からの文化というものが、幾つかあると思うのですが、大きな柱

の1つがやはり「うとういむち」、おもてなしの精神だと思っていまして、あの時代にこれだけ小さな国がどうして世界の人とわたり合えたのかということを見ると、やはりおいしいお酒を飲んでほしいと言っておいしい泡盛が生まれ、よい踊りを見ていただきたいと言って芸能が発展し、そして工芸が発展し、といったところが、例えば先日、私はブラジルとペルーで公演をしてきたのですが、そこでもウチナーンチュ4世とか5世とか、全く沖縄にアイデンティティのない方々でも沖縄の文化が好きでエイサーをしたり、空手をしたり、琉球の文化に親しんでいる皆さんがサポートをしてくださったのですけれども、そこにあふれている気持ちが何だろうと思ったら、やはり「うとういむち」のおもてなしの精神で沖縄から来た私たちを大歓迎で迎えてくださって、ウチナーンチュの日のイベントの一環でもあったのですけれども、そこにいらっしゃるお客様一人一人に本当に楽しんでほしいという気持ちが、例えば県人会の幹部の皆さんもそうですけれども、4世、5世でも、日本語も全くわかりませんといった人々の中にもそういった気持ちが受け継がれているのが、地球の反対側に行ってもこういった精神があるというのは、本当に「うとういむち」の精神というのはすばらしいものだと思いますし、私たちの中にあるものだと思います。

ですから、これは一人一人が心の中にとどめているものではあるのですけれども、ぜひこれからそれを見える化していくとか、県民それぞれが、それぞれいる分野の中で表現をしていくということがとても大切ではないかなと思いました。

本当に皆様の御意見、そして県の皆様の真摯な御意見を伺って、大変勉強になった会でした。ありがとうございました。

#### **【下地部会長】**

ありがとうございました。

與那嶺委員、お願いいたします。

#### **【與那嶺専門委員】**

お疲れさまです。

膨大な資料、特に事務局がかなり細かく資料をつくっていただき、大変感心しております。

先ほど自分が申し上げた多文化共生社会の構築というのは、交流の中でやったので、若干勘違いして言葉足りずなのですが、実際、618ページと619ページにはきちんと多文化共生社会に対してどうしていくのかという記載があるんです。

多文化共生社会で一番大切なのは、国籍や民族に関係なく誰もが安心して暮らせる社会

づくりだと思います。先ほど申し上げたのは、これだけの外国人が在住しているのですが、その在住している外国人と県民がきちんと交流した中で安心した社会づくりが今後必要になるのではないかと。これは国も推進しているところだと思います。

本財団でも、災害時に外国人に対してどういった支援ができるかということで、災害時外国人支援サポーター養成とか、避難所運営訓練の実施とか、そういうものを作って外国人との交流を深めていくという事業を行っております。

今後も関係課と連携して、ぜひまたそういう交流の事業等をしっかり進めていきたいと思っております。ありがとうございました。

#### **【下地部会長】**

佐野専門委員、お願いいたします。

#### **【佐野専門委員】**

もうたくさん言わせていただいたのですが、ここまでいろいろな議論をさせていただけるだけの準備を事務局にさせていただいたことを本当に感謝しております。ありがとうございます。

私も4月に着任して、まだまだ沖縄のことを勉強中ですが、今回皆さんからいろいろな御意見を伺うことで、そこから勉強することもできて大変ありがたい機会でした。

先ほどのウチナンチュのアイデンティティは、これはぎりぎり定義を決めていくと大変かなと思うのですが、一方で、繰り返しになりますが、本当に沖縄が好きだという人はたくさんいるので、それだけでいくと、もちろん多文化共生の観点からすごくいいことですが、私はそれこそ、内地の人間でアフリカから来て思ったのは、何かそれよりも強いものがあるなど。そのパワーが、今回の首里城のこともそうですけれども、沖縄が好きで、ファンで、サポーターという以上のものがウチナンチュという言葉にはあるなど思っているんで、そこを何か言い表せるようないい定義というか、何かがあるといいなど。そうすると、次の世界のウチナンチュ大会も、もちろん誰でもウェルカムなんだろうけれども、その何か気持ちのつながりというものがあると。それこそが沖縄ウチナンチュのパワーなのかなと思うので、これは引き続きいろいろところで議論をなされていくことを期待しています。ありがとうございました。

#### **【下地部会長】**

この審議会にミゲールさんが入っている意義は、私はとても大きいと思っております。佐久本さんがいっぱいしゃべるとなかなか発言の機会がありませんでしたので、最後に思

いのたけを言うていただければと思います。よろしくお願いします。

#### **【ダルーズ専門委員】**

2回参加しているのですが、膨大が資料が準備されていて、難しい話がたくさん出て、ほとんど発言していないけれど、いろいろな観点で勉強になっていて、自分でそれをどう活用できるか、空手だけではなく、空手と観光、文化、あとはきょうも出たアイデンティティとかネットワーク。これは言葉だけなんだけど、それをどうやって実現していくかという。もちろんこれは沖縄県の振興計画だけれど、それに県民以外いろいろな人がかかわっていくネットワークをどうつくっていくかと。もちろんあることはあるんだけど、もっと活用できるのではないかなと。

さっきのアプリの話はとてもいいなと思いました。ただPDF化して流すのではなくて、実際わかりやすいような、全文は読んでいません。PDFを送ってもらって、PDFで検索できるから空手を探してきたんだけど、それを県民がもっと理解していければいいなと。

もちろん、県民もそうですが、沖縄のファン、世界にいる空手のファン、世界のファンがそれも恐らく気になると思うので、その国際版をつくってもおもしろいなと思っています。ありがとうございました。

#### **【下地部会長】**

ぜひフランス語版のときには協力をお願いします。

#### **【ダルーズ専門委員】**

メルシー。

#### **【下地部会長】**

メルシーで終わりましたので、これで通訳も1人分はオーケーですので、よろしくお願いします。

それでは、渡嘉敷委員お願いいたします。

#### **【渡嘉敷専門委員】**

まず、事務局の皆さん、こんなに膨大な資料、大変だったと思いますけど、ご苦労さまでした。700ページもあって、私もほとんど見ていません。ただスポーツに関する部分は目を通しました。ある程度苦労もしながら、相当な時間をかけてつくった資料だろうということに感心をしています。

我々体協というのは、普通は競技録とか、生涯スポーツの推進、あるいは青少年の育成

というような柱のもとで事業を進めている組織です。なかなか産業に絡めたスポーツはぴんとこないような状況がある中で、文化、観光、そこにスポーツという3つの柱のもとでいろいろな会議でいろいろな意見が聞けたというのは、大変勉強になったところです。

今後、やはりスポーツというのは、オリンピックもありますけれども、それ以外でも国際の大会、いろいろ大会がありますので、アジアの中心になるような沖縄の中でいろいろなスポーツ合宿をしたり、交流ができればいいのかなというような感じを受けております。

ただ、そのためにも沖縄の青少年がもっと力をつけて、いつでも、どこでも、どの国でもいらっしゃいというような力をつければ呼べますけれども、弱いチームがおいでと言ってもなかなか来ませんので、そこら辺はまた県を挙げて協力していただいて、やはりスポーツというものが表に出られるような沖縄をつくっていただければいいのかなと思いますので、そこら辺の協力も県のほうによろしく願いをして終わりたいと思います。

ありがとうございました。

#### **【下地部会長】**

小島委員、お願いします。

#### **【小島専門委員】**

きょうで最後ということで、何を置いてもこの委員会には出席させていただいて、ただ、JATA(日本旅行業協会)として出ささせていただき、正直観光という部分はかなり広い分野であり、この資料の中でもかなりのページが割かれているんですけども、なかなか読み込めず、この資料について、何ページ、何行目がどうだというような意見が全く言えていない中で、観光というのは本当に幅広い分野、インもアウトもあって、出るほうもあり、インバウンドもあり、それで観光と言うのですけれども、本当に日々変わっていくものですので、當山さんではないのですけれども、半年前のものが既にどんどん変わっていくんです。

今も日々変わってしまっていて、例えば、ダイナミックパッケージという航空会社さんからの料金表が出されているのですけれども、それはどんどん日々変わっていく料金なので、旅行会社はパンフレットができない時代になるんです。そういった部分とか、いろいろなことがあります。

その中で、こういう会議に参加させていただいたこと、それで皆さんの広い意見が聞けたこと、余り大した意見が言えなくて申しわけなかったんですけども、とても勉強になりました。ありがとうございました。

**【下地部会長】**

前田委員、お願いいたします。

**【前田専門委員】**

私も大変勉強になりました。ありがとうございました。

先ほど與那嶺委員に多分誤解を与えたかもしれないのですが、うちは外国人を雇用をしているという責任もあるので、外国人がこの名護の地に住んで生活していくということに対しての不安は、しっかり雇用主としても責任を持たなくてはいけないと思っているので、他人事ではないのです。なので、このように安心して暮らしていける社会づくりが本当に大事だなと思ったし、万国津梁の世界に渡り歩いていた琉球としてはいいなと思っているところで、本土の御出身だろうが、移住者だろうが、外国人だろうが、生粋のウチナーンチュだろうが、みんなでチムグクルでおもてなししているので、それが「うとういむち」なのです。

なので、アイデンティティというのはそこかなと思ったり、そういうことでは別に関係なくというか、それが大事なものというのをきちんとみんなで理解してやっているの、一個人の会社、小さい一集合体でいえば、それを大事にやっぺいこうねとやっているの、移住者だろうが、外国人だろうが、分け隔てなくやっていますから、沖縄はそういうところの懐の深さ、さっき佐野さんもおっしゃったウチナーンチュというパワーとか、そういうところを今回の委員会でいろいろなスポーツや、空手や、文化の皆さんのお話を聞いてとても勉強になりましたし、また深みが増した気がしています。

本当にありがとうございました。

**【下地部会長】**

當山委員、一言。

**【當山専門委員】**

観光でいったら間違いなくキープレイヤーはウチナーンチュと41市町村です。そういう意味でいくとSDGsの世界を早目につくって、ウチナーンチュって地球人だよねと言われたいんです。25年までに頑張りましょう。25年に実現しましょう。よろしくお願ひします。以上です。

**【下地部会長】**

平田副部会長、お願いします。

**【平田副部会長】**

職員の皆さん、本当にお疲れさまです。ありがとうございます。一番勉強されているのではないかという気がします。職員の皆さんと、それから新聞記者の皆さん、なぜかと言うと、誰かに伝えなければいけないですよ。だから学ばんですよ。

僕はこの席に座っていて、いつも皆さんに頭が下がる思いですが、だからこそ自分の視点で、目線で言えることに責任を持って発信していこうと思って座っていました。

5回が終わってほっとしていますが、やはりきょうは首里城の話が出ましたけれども、今回のキーワードはセレブレーション・オブ・ライフというか、ウチナーグチで言えばヌチヌグスージサビラ(命のお祝いをしましょう)と言った小那覇舞天という人がいましたけれども、小那覇舞天がそれを言ったときに、きっと周りの人たちから笑われて、むしろ怒られて、人が死んだというのに命のお祝いしようとは何事だと言われたといいます。今となってはそれはすごいウチナーンチュのスピリッツを体現している言葉になっています。

僕は、やはり組踊上演300年の節目は今年しかありませんし、首里城が焼け落ちたならば、焼け落ちた首里城を背にしてでも300年のお祝いするべきだと。それを50年、100年後の人たちが写真で見たときに、そういう時代もやっていたんだねというようなことが語られることがあるかもしれないなという気がします。

もちろんいろいろな規制があるでしょうけれども、逆境に強い沖縄魂というのは、やはり一番今回首里城から学んだことです。そして、復興ツーリズムというのが3.11以降にありましたけれども、ぜひ観光分野でもありのままの姿の沖縄を見せていく。一緒になって築城ツーリズムと言うのでしょうか、再建ツーリズムというか、もっといえば琉球ルネッサンスツアーでもいいです。これを機にもう一回ウチナーンチュの思いというものを、ルネッサンスを迎えていくのだというような逆転の発想で生きていくのがウチナーンチュらしいのではないかなと思っています。そのような生き方でいきたいと思っています。

今、子供たちは通常、例えば舞台でクンジャン(国頭)サバクイを踊ったりするんですけど、国頭サバクイはまさに首里城築城の歌だったということで、今まで当たり前で踊っていた踊りというのが全然リアルに今は感じられるわけですね。ヤンバルの木を切り倒して持って来る。これはウゼモク(御材木)だよ、というようなことを、歌詞も含めて生きた学び、教育をここから得ていかないと、本当に消失感、喪失感だけにいるとつか舞天に笑われてしまうのではないかなと思っていますので、文化の住人としてはそういう情熱で20年、30年かかろうが、みんなと一緒に首里城築城を体験していくような人生に今、立ち会えて逆によかったなと思っています。

21世紀ビジョンのプランの中に間違いなく1つの柱となって、きっとそれも位置づけられたらいいなと思っていますので、これからもよろしく申し上げます。以上です。

#### 【下地部会長】

少し時間が過ぎましたので手短にいたしますけれども、事務局の皆さん、本当にお疲れさまでした。私も以前は県の職員でしたから、これだけの資料をつくるのがどれだけ大変かというのは十分わかっているつもりです。その上でときどき文句を言って大変申しわけありませんでした。ありがとうございました。

今いろいろな御意見が出ましたけれども、最後に、観光を勉強し始めたときに、観光は平和へのパスポートという「ツーリズムパスポートピース」という言葉は国連で、1962年に決議をした言葉です。観光を勉強し始めたときからこのインパクトをずっと持ち続けています。観光は基本は文化ですし、人との交流ですし、スポーツは平和の祭典ということもありますし、この文化・観光・スポーツの分野というのは平和実現に向けての1つのパスポートという意味合いというのはとても大きいなと思っています。

今、平田さんからもありましたけど、今回の首里城の件は、我々はまたもう一度自分事として捉えて、それぞれの立場で前に向かう材料があると思いますので、それがまた結集するときに沖縄の新しいスタートになる日でもあるのではないかなと思っています。

今回の審議会でいろいろまとめさせていただいて、審議会は終わりですけれども、これは終わりではなくて次への始まりになっていきますので、次の計画に向けて、環境の変化が非常に激しい中ですので、また日々新しい情報も盛り込みながら取り組んでいく必要があるかなと思っています。

皆さんの協力のおかげで無事審議会を進行することができました。御協力どうもありがとうございました。

それでは、事務局に進行を戻します。

#### 【事務局 仲里班長(観光政策課)】

下地部会長、どうもありがとうございました。

最後に、今後のスケジュールについて御説明を申し上げます。

これまで7月下旬から11月中旬まで、本日までの間に各部会で御審議していただいた結果につきましては、来る12月16日に開催予定であります正副部会長合同会議において、各部会からの調査審議の結果報告を受けまして、必要な調整を行い、同じく12月26日の開催予定であります沖縄県審議会において知事への答申案を審議していただく予定としており

ます。

また、来年1月に予定しております審議会会長から知事への答申をいただいた後は、事務局にて最終確認を行い、令和2年3月に総点検報告書を決定する予定でございます。

令和2年度、次年度につきましては、県において新たな振興計画骨子案を作成し、県内各界各層からの御意見をいただいた後に新たな振興計画の素案を策定しまして、翌令和3年度初めにまた審議会への諮問を予定しております。その際には、また各部会において審議をいただくこととなりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日いただきました追加の御意見につきましては、下地部会長と相談させていただきまして、最終的な部会の報告書という形で取りまとめをさせていただきたいと思っております。あらかじめご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、新垣文化観光スポーツ部長からご挨拶を申し上げます。

#### **【事務局 新垣文化観光スポーツ部長】**

時間も過ぎておりますので、手短に申し上げます。

各委員の皆様には、本日欠席の委員も含めまして全5回、活発な議論、また審議をいただきましてありがとうございます。

観光・文化・スポーツ、もちろん空手、MICE、交流という幅広い分野、それぞれ各委員の皆様から専門的な知見はもとより、沖縄の今後に対する非常に熱い気持ちが各5回の審議の中で非常に活発に行われていたものと思っております。

改めて感謝を申し上げます。

先ほど下地会長からもございましたように、きょうで終わりではございませんで、これまでの総点検を私どもでまとめを踏まえまして、私どもでまとめさせていただきまして、また次の振計の骨子という形でご提案申し上げますので、改めて皆様の御理解、御協力、御助言をお願いしたいと思います。5回の審議、まことにありがとうございました。

#### **【事務局 仲里班長(観光政策課)】**

新垣部長、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして本日の沖縄県振興審議会、第5回文化観光スポーツ部会を閉会いたします。

委員の皆様、本日はお忙しいところ御出席いただき、ありがとうございました。

どうもお疲れさまでございました。

## **2. 閉会**